

# 種馬鈴しょの取扱い ハンドブック 〔改訂版〕



日本種馬鈴薯協会

全農

ホクレン

## はじめに

本冊子は、平成17年に発行された「種馬鈴しょの取扱いハンドブック」の改訂版であり、改訂版の発行にあたっては、全農、ホクレンの全面的な協力の下、種馬鈴しょ主産県の関係団体で組織している日本種馬鈴薯協会が行うこととなりました。前版は、豊富な写真などにより内容が豊富でわかりやすく、大変評価の高いものでありましたことから、改訂にあたっては前版の多くを生かし、その後の品種の動向、技術改良、制度の改変など、一部にとどめています。

優良な種苗の生産・流通は農業生産上きわめて重要なものであり、特に馬鈴しょは、増殖率や病虫害などから安定的かつ安価な種苗生産が難しく、そのため、原原種・原種の生産・配布については、(独)種苗管理センター、都道府県など公的機関によって担われており、優良な種馬鈴しょの生産・流通には、多くの努力が払われております。

しかし種馬鈴しょは、採種圃での収穫の後、保管・輸送され、購入側の保管、植え付けの準備、植え付けという多くの過程をたどり、その間、病虫害の被害、腐敗、生理障害など様々な問題が発生することが少なくなく、問題点は、産地側にある場合、流通段階で発生する場合、購入側で発生する場合など、様々なケースが考えられるところです。

全農あるいはホクレンにおいては、集荷販売業者として、問題が発生しクレームがあった場合には逐次報告・対応され、解決が図られているところですが、本冊子は、これらのクレームの発生を出来るだけ少なくするために、特に購入側に重点を置き、購入後の保管、植え付けまでの準備、及び植え付けにおける種馬鈴しょの正しい取り扱いを示しました。また、種馬鈴しょ生産の重要性を理解していただくため、産地側における病虫害や生理障害の発生防止策、品種の特性、及びクレームの対応事例、種馬鈴しょ検疫にかかわる法律などを記載しました。

本冊子が活用され、種馬鈴しょの取り扱いの改善に役立ち、馬鈴しょ生産の振興に役立てることができれば幸いです。

なお、発刊にあたり、ご協力いただいた全農、ホクレンの関係各位及び、貴重な資料を利用させていただいた関係各位に対し、お礼を申し上げます。

平成21年4月

日本種馬鈴薯協会会長 桑名清文

表紙の写真：1段目／ワセシロ（左）、トヨシロ（中）、男爵薯（右） 2段目／紅丸の変異種（左）、コナフブキ（中）、野生種（右）  
3段目／ホッカイコガネ（左）、農林1号（中）、キタアカリ（右） 4段目／野生種（左）、メークイン（中）、紅丸（右）